

## 使用上の注意 改訂のお知らせ

2012年9月

### 経皮鎮痛消炎剤

**ジクロフェナクナトリウムテープ 15mg「ユートク」**

**ジクロフェナクナトリウムテープ 30mg「ユートク」**

DICLOFENAC SODIUM TAPE

ジクロフェナクナトリウムテープ

**ジクロフェナクナトリウムクリーム1%「ユートク」**

DICLOFENAC SODIUM CREAM

ジクロフェナクナトリウムクリーム

製造販売元  祐徳薬品工業株式会社  
佐賀県鹿島市大字納富分2596番地1

このたび、標記製品の「使用上の注意」を改訂いたしましたのでお知らせ申し上げます。  
ご使用に際しましては、下記の改訂内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。  
なお、改訂後の添付文書を封入した製品がお手元に届くまでに若干日時を要する点をご了承下  
いますようお願い申し上げます。

#### 1. 改訂内容（下線部：追記・改訂部分）

改訂後	改訂前
<p><b>4. 副作用</b> 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(1) <b>重大な副作用</b>（頻度不明）</p> <p>1) <u>ショック、アナフィラキシー</u>：ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、血管浮腫、呼吸困難等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>2) <u>接触皮膚炎</u>：本剤使用部位に発赤、紅斑、発疹、そう痒感、疼痛の皮膚症状があらわれ、腫脹、浮腫、水疱・びらん等に悪化し、さらに全身に拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。</p>	<p><b>4. 副作用</b> 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(1) <b>重大な副作用</b>（頻度不明）</p> <p>←追加</p> <p><b>接触皮膚炎</b>：本剤使用部位に発赤、紅斑、発疹、そう痒感、疼痛の皮膚症状があらわれ、腫脹、浮腫、水疱・びらん等に悪化し、さらに全身に拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。</p>

#### 2. 改訂理由

##### 厚生労働省医薬食品局安全対策課長通知による改訂

先発医薬品の企業報告により、国内において「ショック、アナフィラキシー」の重篤症例が集積されたことから、これを「重大な副作用」の項に追加いたしました。

- 本情報は DSU（医薬品安全対策情報）No.213（平成 24 年 10 月発行予定）に掲載されます。
- 添付文書情報は「医薬品医療機器情報提供ホームページ（URL:<http://www.info.pmda.go.jp>）」においてもご確認いただけます。（掲載まで最大 2 週間かかる場合があります。）

★裏面に改訂後の「使用上の注意」全文が記載されていますので、併せてご参照ください。

ジクロフェナクナトリウムテープ 15mg/30mg「ユートク」およびジクロフェナクナトリウムクリーム 1%「ユートク」の「使用上の注意」全文（下線部追加）

【禁忌（次の患者には使用しないこと）】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤等により誘発される喘息発作）又はその既往歴のある患者〔重症喘息発作を誘発するおそれがある。〕

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に使用すること）

気管支喘息のある患者〔気管支喘息患者の中にはアスピリン喘息患者も含まれており、それらの患者では重症喘息発作を誘発するおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- (1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- (2) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分に行い慎重に使用すること。
- (3) 慢性疾患（変形性関節症等）に対し本剤を用いる場合には、薬物療法以外の療法も考慮すること。また、患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ニューキノロン系抗菌剤 エノキサシン等	けいれんを起こすおそれがある。けいれんが発現した場合には、気道を確保し、ジアゼパムの静注等を行う。	ニューキノロン系抗菌剤が脳内の抑制性神経伝達物質である GABA の受容体結合を濃度依存的に阻害し、ある種の非ステロイド性消炎剤との共存下ではその阻害作用が増強されることが動物で報告されている。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用（頻度不明）

- 1) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、血管浮腫、呼吸困難等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 接触皮膚炎：本剤使用部位に発赤、紅斑、発疹、そう痒感、疼痛の皮膚症状があらわれ、腫脹、浮腫、水疱・びらん等に悪化し、さらに全身に拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
皮膚 <sup>注</sup>	皮膚炎、そう痒感、発赤、皮膚のあれ、刺激感、水疱、色素沈着、光線過敏症、浮腫、腫脹、皮膚剥脱

注) このような症状があらわれた場合には、使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への使用

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。〔妊婦に対する安全性は確立していない。〕

6. 小児等への使用

小児等に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。

7. 適用上の注意

使用部位

- (1) 損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。
- (2) 湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。

【お問い合わせ先】 祐徳薬品工業株式会社 学術研修部

〒812-0039 福岡市博多区冷泉町5番32号 オーシャン博多ビル 8F

TEL. 092-271-7702 FAX. 092-271-6405